

平成 28 年度  
事業報告書

施設名：たかし保育園稲毛海岸

平成 29 年 3 月 31 日  
社会福祉法人茂原高師保育園  
理事長 篠田 哲寿

## 1. 管理業務の実施状況

### ① 保育時間

	保育標準時間	保育短時間
平日	7:00~18:00	9:00~17:00
土曜	7:00~18:00	9:00~17:00

### ② 特別保育事業

乳児保育事業 (産休明け保育事業)	該当なし
延長保育事業	月～金：18:00～20:00 ・延長保育利用状況については毎月、市役所に報告
地域交流	近隣の3丁目団地との交流 ・子どもの日の集い クリスマス会等 ・各年齢の親子との交流 ・夏祭り

### ③ クラス体制および利用状況

めばえ組…0歳児

ふたば組…1歳児

しげり組…2歳児

みのり組…3・4・5歳児

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
定員	3	4	5	6	6	6	30
29年3月	5	6	8	6	8	8	41

## 2. 年間行事実施状況

誕生会・避難訓練・身体計測・運動遊び（毎月実施）

4月	入園式 進級会 お花見 徒歩遠足 リトミック 子どもの日の集い プラネタリウム（年中・年長）
5月	運動遊び開始 保育参加 懇談会 千葉ロッテ交流会
6月	歯科健診 蟻虫卵検査 内科健診 歯磨き指導（みのり） 仲良しの日 リトミック 食育 絵本の会
7月	水遊び 七夕の集い 絵本の会 園バス スイーツバイキング 食育 夏まつり（地域交流）
8月	水遊び すいか割り 園バス プール（近隣保育園）
9月	総合避難訓練 ランチバイキング 尿検査 リトミック 運動会
10月	芋ほり（3・4歳児）園バス 芋煮会 親子遠足（アンデルセン公園）
11月	仲良しの日 リトミック 内科健診 スweetsバイキング 通報訓練 就学前健診（年長） 園バス
12月	交通安全教室（みのり） クリスマス会 餅つき
1月	初詣（全園児）初釜（みのり）発表会 リトミック お店屋さん ごっこ 食育 小学校交流（年長）
2月	節分の集い 絵本の会 食育（味噌作り）保育参観 プラネタリウム（インフルエンザの為中止）
3月	保育参観 ひな祭り会 徒歩遠足（全園児）進級会 入園説明会 ランチバイキング お別れ会 電車遠足（動物園） 卒園式
その他	近隣園交流会 実習生・職場体験・ボランティアの受け入れ

3. 運営費執行状況（決算書）

別紙「決算書 平成 28 年度 (自) 平成 28 年 4 月 1 日 (至) 平成 29 年 3 月 31 日」参照

#### 4. 評価および反省

##### (1) 保育内容

H28 年度の幼児クラスは、初年度に入園した子どもたちが年長を迎えたため、22 名からのスタートとなったが、新人を含んだ保育士を 3 名配置出来たため、縦割り保育だけではなく、年齢に応じたクラス活動も行うことができ、より細やかな保育が出来たと思う。昨年度から不在だった年長児に代わり、保育園のリーダーとして活躍していた子ども達を中心に行事も活気に満ちたものとなった。近隣の保育所や今まで交流のなかった小学校と連携することも出来たことはとても良い経験になった。この交流を継続していきたい。

2 歳児クラスは経験豊かな保育士 2 名が担任になり、4 月から落ち着いた保育が提供できた。特に、今までと違った保育内容を工夫することで子ども達の興味を引き出せていた。

1 歳児クラスでは、コーナー遊びの充実に取り組んだことで、子ども達が上手に活用できるようになった。後半は 0 歳児クラスの子供達を誘って遊びに誘えるお兄さんのような関わりが出来るようになり、成長を感じられた。

0 歳児クラスは 4 名からのスタートだったが、前年度からの継続児がいたことで泣くことも少なく、早くからリズムが整った保育が行えていた。後半は 5 名になったが、発達に応じた遊びを行うことが出来ていた。

##### (2) 児童処遇の関係

4 月より 39 名と人数が多かったが幼児クラスは人数の多さを感じさせないよう机の配置や活動時間に時差を付け対応することでスムーズな保育が行えていた。保護者からも人数の事で心配されることはなかったのが良かったと思う。8 月、9 月には、職員の採用と育休明け保育士の復帰があり職員数は十分にあつたので年間行事は、予定通り実施できた。また、遅番時の子どもとの関わり方を検討し、以前より毎日延長を利用する子ども達に対しての遊ばせ方に工夫がみられるようになり延長時間を楽しく過ごせていたようだ。

2 月中旬にインフルエンザが流行り欠席が例年より多い日があり、早急に保護者への注意喚起に努めた。今まで周囲で感染症が流行しても当園

で発生することがなかったので今回は驚いたが、兄弟が小学校に通うなど環境が以前より変わってきたので対応に気を付けたいと思う。

### (3) 全般について

3歳以上児が多かったことで保育園全体に活気がみられた。特に縦割り保育の幼児クラスでは年長児が頼れる先輩として年下の子ども達に遊びを教えたり、ルールの意味を分かりやすく知らせたりと保育士の仲立ちを必要とせず、子ども同士でまとまっていったことには驚かされた。また、行事では当日の会場が違っていても全員がいつも通りの姿を披露することが出来、職員一同、子どもの成長を感じさせられた一年であった。今年度から9月より年長児は午睡をやめ、この時間を使って年長だけの大切な活動時間にすることで「機織り」「迷路作り」など集中して自分で作品を完成させる経験を積むことも出来た。年長に憧れを持てる環境が次年度の新年長児に影響を与えてくれると縦割り保育の良さがさらに活かされると思う。

乳児クラスはコーナー遊びの環境が整ってきたので保育士も遊ばせ方を少しずつ理解し、ごっこ遊びを落ち着いて楽しむ姿が見られた。毎年、保育参観、懇談会を実施することは保護者に保育園の様子を見てもらえるので安心感をもって頂けたと思う。また、乳児の懇談会に栄養士も同席するようにしたため、食事について気軽に保護者が質問し、保育園の食事についての考えを直接伝える事ができ、良い機会を持てたと思う。

平成28年度は「環境の中で子どもが主体的に遊ぶには」「遊ばせるようにするには」をテーマに保育を行ったが、「主体的に遊ぶ」という事の「子どもから動く、子どもが考える」がまだ出来ていない面も見られるので、平成29年度も常に子どもを中心とした保育の中でテーマに掲げた保育が出来るように現場研修を大切にしたいと思う。